



会社概要

▼事業内容

- ・遠心分離機を中心とした各種分離機や応用装置、あるいは関連機器の製造・販売
- ・合成樹脂、化学工業薬品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびに関連製品・加工品の輸出入および販売

▼従業員数

354名 (2010年10月末現在)

▼本社

東京都品川区大崎1-2-2

▼URL

<http://www.tomo-e.co.jp/>

▼導入プロダクト

- SuperStream-CORE (基幹会計システム)
- SuperStream-AP+ (支払管理システム)
- SuperStream-FA+ (固定資産・リース資産管理システム)
- SuperStream-PN+ (手形管理システム)
- SuperStream-Planning (戦略経営支援システム)
- SuperStream-connect (システム連携ツール)

導入パートナー



日本電気株式会社
NECソフト株式会社

自社開発による“属人化”した汎用機からの脱却を実現 オープン化による市場対応力の強化に繋がる新たな財務会計基盤を構築

導入の背景

汎用機によって自社開発された基幹システムの刷新を目指す

世界的なシェアを持つデカンタ型遠心分離機を主力とした機械製造販売事業と、工業材料や電子部品などを海外から輸入する商社機能としての化学工業製品販売事業という2つの事業の柱を持ち、あらゆる産業分野に様々なソリューションを提供している巴工業株式会社。下水や産業排水処理など環境保全事業にも積極的に取り組みながら、中国などを含めたグローバルな事業展開を行っており、日本の産業界発展に大きく貢献している。

2010年11月より中期経営計画「巴525」がスタートした同社は、機械事業においては中国や北米を中心とした海外市場への展開やエネルギー・リサイクル分野を対象とした市場開拓を積極的に推し進めており、CO2削減に寄与する汚泥・産業廃棄物など燃料化技術の確立による事業化を目指している。そんな同社が2009年より取り組んだのが、汎用機による自社開発で構築された基幹システムの刷新プロジェクトだった。

導入前の課題

内部統制の強化と市場への変化に対応できる基盤作りに着手

もともと販売管理や財務会計などの基幹システムは、すべて自社開発されており、汎用機を用いて運用を行っていた。しかし、市場の変化へ柔軟に適応しながら度重なる制度変更へも対応しなければならぬ今日のシステムにあって、自前のアプリケーションを改変していくことが運用的にも人員的にも困難になりつつあったと、経理理事 兼 経理部長 松本 光央氏は当時を振り返る。例えば組織変更があった場合には、開発期間をはじめ、変更リスクや適用範囲の洗い出しなども含めて、基幹システムに反映させるまでに1ヶ月あまりの時間を要していたという。

「前回の中期経営計画において基幹システムの刷新が盛り込まれ、オープン化への取り組みが行われることになりました。昨今では内部統制の観点からも、ログ管理や権限付与などの機能が必要となります。自社開発のシステムでは監査法人への説明もハードルが高い

のが実態。だからこそ、自社開発からの離脱を目指すことになったのです」(松本氏)

基幹システムの刷新については、当初はシステムのグランドデザインを描く過程で全体最適を実現するERPの導入が検討されたと経営企画室 システム管理課 課長 高橋 裕一氏は語る。しかし、数十億にも及ぶ莫大な投資コストが必要となるうえ、現業をこなしながら人的なリソースを確保することが困難な状況だったという。そこで、経営層の判断により、部分最適からオープン化への取り組みを開始することになった。その第一歩として着手したのが、標準的な業務の多い財務会計部分だった。



松本 光央氏
巴工業株式会社
経理理事 兼 経理部長

システム選定と導入

豊富な実績が後押し！部分最適にフォーカスした財務会計システムを模索

新たに財務会計システムを選定するにあたり、海外や国産のERPパッケージの部分導入を含めて候補に挙がったと高橋氏。なかでも目に留まったのが、様々な提案資料や広告のなかに登場していたSuperStreamだった。

「部分最適という方針が決まった段階で、

海外製ERPの部分導入では他システムとの連携を含めて硬直化を招く恐れもありました。最適な製品を選ぶ過程で、財務会計にしっかりとフォーカスした製品が必要だったので」(高橋氏)

また、同社の中核となっている遠心分離機

は、標準品での取扱いよりも仕様に応じて個別の部品を組み上げて提供されることが圧倒的に多く、部品単位での在庫管理も必要になる。詳細な個別原価計算が行われていることから、一般的な海外製 ERP に仕様を合わせるのが難しいという判断もあった。だからこそ、柔軟な管理が可能な財務会計システムが求められた。

「多くの企業、特に上場企業で多く活用されているという豊富な実績面からも安心感があり、当社として申し分ない製品だったのです。それまで、汎用機により内部統制対応では非常に苦労をしていましたが、*SuperStream* は内部統制面にも優れた製品だという印象を受けたことも選定の大きなポイントの一つです」(松本氏)

そこで、同社の中期経営計画に沿った形で財務会計システムの刷新が行われ、その基盤インフラとして *SuperStream* が選ばれたことになった。

導入効果

属人化したシステムからの脱却を実現！可視化とともに情報の質が大幅に向上

現在は、自社開発で運用していた経理関連業務システムを刷新し

SuperStream-CORE を中心に支払管理システム (AP+) や固定資産・リース資産管理システム (FA+)、手形管理システム (PN+)、戦略



高橋 裕一氏

巴工業株式会社
経営企画室 システム管理課
課長

経営支援システム (Planning)、さらには *SuperStream* 専用のシステム連携ツール (connect) が導入されている。債権管理は販売管理システム側で行われており、今回の刷新には含まれていない。なお、カスタマイズを実施したのは、手形発行機との連携部分や手形通番の自動割付、さらには売掛債権での支払を行うファクタリングデータ作成機能で、その他は *SuperStream* の標準機能で運用を行っている。

「システム面では、安定して稼働していることに加え、ほぼ標準で導入できたことで以前のように“属人化”したシステムから脱却できたことは大きい。組織変更や科目追加などもマスタ登録だけですぐに実現できます。市場の変化にも柔軟に対応できる環境を整えることができました」(高橋氏)

今回は、*SuperStream* によって振替伝票

に関する電子承認フローを新たに導入し、内部統制環境の強化を図っている。紙による処理も未だ残っているが、将来的にはすべて電子化した承認フローを実現したいと松本氏は意欲的だ。また、連結対象の国内子会社 2 社にも *SuperStream* が新たに導入されており、情報の可視化ができたこともシステム刷新の効果だという。

「運用面では、決算帳票確認作業などが削減できました。以前に比べると 1 日程度早くなった印象です。伝票を入力すればいつでも締めることができるという安心感があります」(松本氏)



「運用面では、決算帳票確認作業などが削減できました。以前に比べると 1 日程度早くなった印象です。伝票を入力すればいつでも締めることができるという安心感があります」(松本氏)

また、GSV 出力が可能のため Excel などでの加工もしやすくなり、摘要項目を詳細に入力できるので情報の質が向上したという。情報の質に関しては、今回は汎用機上で稼働する販売管理システムから connect を利用して詳細な情報を *SuperStream* にインポートする運用に変更し、扱うデータ量は以前に比べても 10 倍以上。そのため、部別別や商品別で詳細に管理できる環境が整備されている状況だ。さらに、connect を通じて連結決算パッケージへのデータ受け渡しも一括で行えるようになり、運用面での手間が軽減されている。

なお、これまで自社開発が中心だった同社では、外部のパッケージを活用したプロジェクトは初めての試み。プロジェクトに対する不安を払拭したのは、提案から構築までを一手に担った日本電気株式会社 (以下 NEC) および NEC ソフト株式会社の提案力だったと高橋氏は語る。

「疑問に感じたことに対して的確なアドバイスおよび提案をいただくことができました。納期通りにシステムの刷新が行えたのは、NEC の *SuperStream* 導入ノウハウおよびプロジェクトマネジメント力、弊社の経理部門やシステム部門のメンバーをうまく取り纏めていただいたことだと思います」

「今後の展望
基幹システムとの連携を計画
管理会計の充実と IFRS を視野に」

今後の展望

「今後の展望
基幹システムとの連携を計画
管理会計の充実と IFRS を視野に」

今後については、中期経営計画に則った形でシステム連携を行う予定で、機械製造販売事業における生産管理システムとの連携や化学工業製品販売事業で稼働している販売管理システムとの連携などがすでに予定されており、connect などをいながら実施していく予定だ。また、今後は国際会計基準である IFRS への対応も控えており、ギャップ分析などを進めていく中で財務会計への対応を進めていきたいと松本氏。

また、膨大なデータを取り込んだことで管理会計の充実が図れる状況にあるものの、分析を含めてどう使いこなすのかは今後の課題となっている。現在は Planning によって部門別の予算対比表や部課別利益表など詳細な帳票を作成している状況で、さらに *SuperStream* を効果的に活用しながら経営基盤の強化を図っていきたくないと抱負を語っていただいた。

導入パートナーコメント

“お客様と NEC の有機結合”

かゆい所に手が届く汎用機システムからの脱却。当初、難航されることが予想された標準導入でしたが、巴工業様のパッケージに業務を合わせるという強い意志を受け、私ども NEC はお客様と同じキャンパスの上でディスカッションを進めました。会計システム導入を成功させるためには、お客様と私どもベンダーがひとつになり、お互いに協力しあうことがなんといっても大切です。今回のプロジェクト成功もこのひと言に尽きます。“お客様と NEC の有機結合”。私ども NEC はこれまでのプロジェクトで得た経験を更に徹底的にブラッシュアップし、より高度な *SuperStream* 導入をご支援いたします。

日本電気株式会社
第三製造業ソリューション事業部
会計ソリューションセンター

<http://www.superstream.co.jp/>

SuperStream

スーパーストリーム株式会社

〒140-8526 東京都品川区東品川2-4-11 野村不動産天王洲ビル
Tel: 03-6701-3647 Fax: 03-6701-3641
E-mail: ss-info@ssjkk.co.jp

※本導入事例に記載された情報は初掲載時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があります。また、導入事例に記載されている製品名及びサービス名等は、各社の登録商標または商標です。

お問合せ先